

TDU Agora



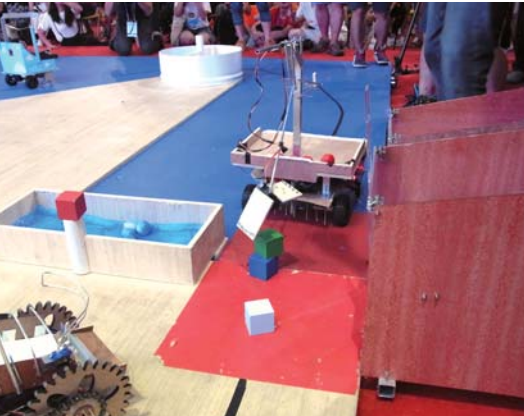
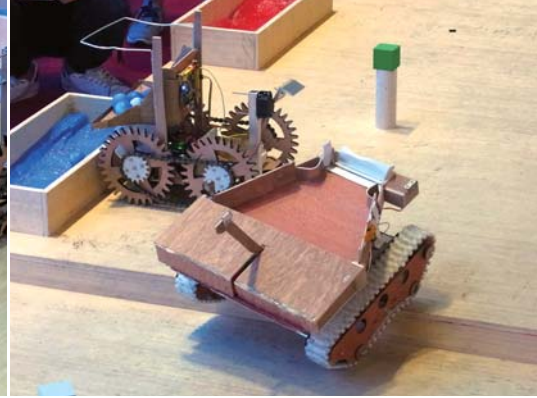
第29回 IDC ロボットコンテスト
大学国際交流大会 in Japan
～学内選考会を通過した6名が参戦～1

CONTENTS

今月の顔 大越康晴准教授 (理工学部 電子工学系).....	3	TOPICS	7
キラリ★電大生 理工学部軟式野球部	4	中学校・高等学校	8
TDU LABO 暗号方式・暗号プロトコル研究室 (工学部 情報通信工学科)	5	キャンパスよもやま情報.....	9
学び探求 「工学部第二部 実践知重点科目」.....	6	News.....	10
		Information	15



IDCロボットコンテスト大学国際交流大会に参戦



IDCロボットコンテスト(第28回大会の様子)

特集

第29回IDCロボットコンテスト 大学国際交流大会 in Japan ～学内選考会を通過した6名が参戦～

未来科学部 ロボット・メカトロニクス学科
釜道 紀浩 准教授

IDCロボットコンテストとは

International Design Contest (IDC ロボットコンテスト大学国際交流大会、通称:IDC ロボコン)は、世界各国から大学生を集めて行われるロボコン国際大会です。創造性豊かな国際的感覚を持ち合わせた学生の育成を目的として、1990年に東京工業大学とアメリカのマサチューセッツ工科大学(MIT)によって始められました。その後、この大会の趣旨に賛同する世界各国の大学が加わり、毎年開催されています。今年で29回目を数える、ロボコン創成期から行われている伝統ある大会です。

通常のロボコンでは、個人またはチームであらかじめロボットを製作して大会に持ち寄り、競技会を行います。一方、IDCロボコンは、出場する各国の大学はロボットを製作して持ち寄るのではなく、代表学生を選出して大会に送り出します。大会では多国籍の混成チームを作り、10日間程度でロボットの設計・製作を行い、競技会に挑みます。提示された競技テーマに対し、英語でコミュニケーションを取りながらアイデアを出し合い、協力してロボットの設計・製作に取り組みます。IDCロボコンは、学生の創

造性と国際感覚を養う実践的な経験の場であり、各国の参加大学が協力して実施する国際教育プログラムでもあります。

本学は2006年より参加し、代表学生を派遣してきました。2009年には、第20回記念大会を本学主催にて開催しています。また、2012年には2度目の主催大会を東京千住キャンパス開設記念イベントとして盛大に開催しました。近年は、アジア、アフリカ地域の新規参加国も増えています。2012年に本学で開催した以降は、ブラジル、モロッコ、シンガポール、タイ、中国と世界各地で開催してきました。そして、今年6年ぶりに日本での開催です。

第29回は日本大会

今年の第29回大会は、8月6日から18日にかけて東京工業大学(東京都目黒区)で開催され、世界各国から約60名が参加する予定です。出場大学は、本学、東京工業大学(日本)、MIT(アメリカ)、浙江大学、清華大学、上海交通大学(中国)、ソウル大学(韓国)、タイ選抜学生(タイ)、シンガポール技術・デザイン大学(シンガポール)、ミヌーフィーヤ大学(エジプト)、国立工科大学(メキシコ)、アムリータ大学(インド)です。

学内選考

学部3年生から修士1年生を対象に公募し、選考会を実施して6名の学生を選出しました。1次審査では、日本語によるアイデアプレゼンテーションと面接を実施しました。アイデアプレゼンテーションは、ロボット設計時のディスカッションの場を想定したもので、「フィールド上に置かれたラグビーボールをロボットで拾い上げる機構を2つ考える」という課題に取り組んでもらいました。30分でアイデアをまとめ、審査員の先生方に発表する形式をとりました。面接では、参加目的やものづくり経験に関する質疑を通して評価を行いました。最終審査では、1次審査を通過した学生に対して英語で面接を行い、1次審査と最終審査の総合評価で代表学生を選出しています。

参考ウェブページ

1) IDC ロボコン公式ページ <http://www.idc-robocon.org/>

2) ロボコンヒストリー The 25th anniversary
(ロボコン提唱者・森政弘先生の随筆/NHKロボコン公式ページより)
<http://www.official-robocon.com/blog/125>



最終審査は英語でプレゼン

いざ参戦

IDCロボコンは約10日間という短期間ではありますが、エンジニアを目指す世界各国の学生たちと密に交流でき、大変貴重な体験を得ることができます。初めての体験でコミュニケーションの難しさや、文化の違い、短期間での製作作業など苦労することも多いと思います。しかし、それが成長の糧になると思いますので、この機会を十分に活かして学んでもらいたいと思います。

今年は日本開催で、世界各国から大学生が集結します。大会期間中に、製作会場の見学会や最終競技会の一般公開も予定されています。興味のある方は、是非ご参加いただければと思います。

代表学生紹介

意気込みを
聞いてみました!



佐々木 元気さん(工学研究科 電気電子工学専攻 修士1年)

「ものづくりだけでなく、文化の違いなども体感したいと考えています。IDCロボコンのように、海外の学生とチームを組んで作業を行う機会は貴重なため、ぜひ交流を深めたいと思います。」



比留間 達耶さん(未来科学研究科 ロボット・メカトロニクス学専攻 修士1年)

「今まで身につけてきた知識と経験、問題解決能力をもってIDCロボコンに挑みたいです。また、海外の学生と交流する特別な環境の中で、うまくコミュニケーションを取り、目標を共に達成したいです。」



佐藤 泰彦さん(未来科学部 ロボット・メカトロニクス学科 4年)

「海外の大学生と共同作業する環境で、積極的に挑戦し自分の実力を試したいです。また、考え方や価値観の違いに触れることで、自分の視野を広げ、今後に役立てていきたいと思っています。」



駒場 弘樹さん(未来科学部 ロボット・メカトロニクス学科 3年)

「IDCロボコンでは、自分の力を出すことはもちろん、海外メンバーとの協力が必要です。交流を深めつつ、設計、製作、競技を通して様々な人のロボットに関する技術を吸収して、よりスキルアップできるように頑張っていきたいです。」



小野 智さん(工学部 機械工学科 先端機械コース 3年)

「IDCロボコンが世界で活躍するエンジニアになるための第一歩になるよう、世界各国から来日した学生との交流を楽しみながら頑張りたいです。」



千葉 海都さん(理工学部 電子・機械工学系 3年)

「各国の色々な考えやアイデアが一つの場所に集まる機会はとても珍しく、楽しいことだと思います。自分をどこまで出していけるのか、挑戦する心持ちで挑んでいきたいです。その結果が、とてもよいものになって帰ってくると信じています。」



開会式後に参加者で記念撮影(第28回大会)

人にやさしい薄膜形成と表面処理技術

～環境調和型素材の開発～



理工学部 電子工学系
大越 康晴 准教授

ナノスケールの魅力

今日では、人間適合型をはじめとするデバイスの高機能化技術が急速に発展しています。デバイスの高機能化は、素材特性そのものが性能を大きく左右します。それ故、素材の新たな特性や新規な機能を引き出す薄膜形成技術や表面改質といったナノスケールのプロセス技術は、産業界において大きな役割を果たしています。

私が薄膜材料や表面改質に興味を持ったきっかけは、卒業研究で生体親和性の炭素系薄膜材料を扱ったことでした。大学院生となった2000年当時は、アメリカがナノテクノロジーを国家戦略と定め、その後日本でも重点領域の1つとするなど正にナノテクノロジーブームでした。“ナノ”は文字通りとても小さく、地球1個に対しておよそビー玉1個のスケールになります。現在もそのスケールを実感しながら、“小さな世界”で素材の新しい機能を引き出し、デバイスの高機能化を実現する薄膜形成と表面処理技術の研究に取り組んでいます。



研究室でのミーティング

デバイスの高機能化技術のために

本研究室では、ダイヤモンド状炭素(DLC: Diamond-like Carbon)を中心とした薄膜形成と、材料の表面処理(親水化)をプラズマプロセスに行っています。特にDLC薄膜は、地球上でも最も固いダイヤモンドと潤滑性に優れるグラファイトの特性を持ち合わせ、成膜条件の最適化によって医療材料、電子材用、機械材料など各種用途に応じた「環境調和型材料」として機能を発揮します。

現在、医療用デバイスや、センシングデバイスとしてのDLC成膜プロセスや、大気圧プラズマを用いた表面処理技術の開発に取り組んでいます。学生にとって薄膜形成や表面処理の研究は、自分で作製した試料を自分で丁寧に評価し、時には失敗を重ねる中で目の前で起きている物理現象としっかり向き合うことの重要性を学ぶことができ、非常に有意義な経験となります。

今後も学生と共に、人間適合型をはじめとするデバイスの高機能化を実現する、人にやさしい薄膜形成と表面処理の研究に取り組んでいきたいと思っています。



分光器を用いたDLC膜の分析

大越 康晴 准教授 プロフィール (理工学部 電子工学系)

Profile

2005年 3月	東京電機大学大学院 理工学研究科 応用システム工学専攻 博士課程修了 博士(工学)
2005年 4月	東京電機大学 理工学部 電子情報工学科 助手
2007年 4月	同 生命理工学系 嘱託助手
2009年 4月	同 電子・機械工学系 嘱託助手
2010年 4月	同 助教
2014年 4月	同 准教授
2018年 4月	同 電子工学系 准教授



リーグ戦優勝を決めた部員たち(埼玉鳩山キャンパス野球場にて)

理工学部軟式野球部

首都大学軟式野球連盟2部 春季リーグ戦優勝

～1部リーグ昇格を目指して～

主将 金子 諒(理工学部 建築・都市環境学系3年)

軟式野球部は、34名の部員で活動しています(1年生8名、2年生11名、3年生4名、4年生11名)。所属する首都大学軟式野球連盟のリーグ戦で1部昇格を目指して日々練習に励んでいます。埼玉鳩山キャンパスの野球場を利用し、火・金・土曜日の週3日活動をしています。平日は授業や課題などで忙しく人数の揃わない日もありますが、集合できる土曜日にしっかりと練習や試合をしています。軟式野球部には指導者がいないため、練習メニューの作成や試合で采配を振るうのも学生が務め、各個人が何をすべきか考え行動しています。

今回優勝した春季リーグは厳しい戦いでした。昨



力投する投手陣



リーグ戦初戦は打線が好調で逆転

秋も2部リーグで優勝しましたが、入替戦では大東文化大学に惜しくも敗れてしまい2部残留となりました。4年生が引退し、新体制となり1部昇格を託されましたが、チームがうまくまとまらず春先の練習試合では敗戦が続きました。このままではだめだとチーム内で話し合いを重ね、小さなことから改善し徐々にモチベーションを上げていきました。

転機となったのは、春季リーグ初戦の日本医療科学大学との一戦です。序盤に4点リードされる苦しい展開でしたが、追いつき、また突き放されるも逆転し、何とか勝つことができました。この試合をきっかけにチームが1つになり、リーグ戦全勝で優勝を決めました。新チームになってから思い通りにいかない日々、厳しい初戦を通しての優勝はとても達成感がありました。もちろん選手だけでなく、チームを支えてくれたマネージャー、引退後も練習を手伝ってくれた先輩、大学関係者の方々などの支えがあってこそこの優勝であり、感謝の気持ちでいっぱいです。

1部昇格のかかった入替戦では武蔵大学に惜しくも敗れてしまいましたが、次の秋季リーグ連覇、そして1部昇格を目指し頑張っていきますのでこれからも応援の程よろしくお願いします。

暗号方式・暗号プロトコル研究室 ～バグハンター募集～

工学部 情報通信工学科
齊藤 泰一 教授



暗号方式・暗号プロトコル研究室では、最近ではサイバーセキュリティばかりをやっています。サイバーセキュリティは変わった分野です。サイバーセキュリティの研究は攻撃を知るところから始まります。攻撃では対象の弱いところ(脆弱性)を突き、対象を壊すことが基本です。他の工学分野と異なりとても生産的とは言えません。新しい技術が出てくるとき、ポジティブな開発者はアイデアに夢中でセキュリティ対策を後回しにしてくれていることが多いため、バグハンターはそれらを恰好の餌食と考えます。ところが脆弱性を発見し報告するとベンダーも喜んでくれるので、Win-Winの関係のようです。

脆弱性を発見し報告すると脆弱性番号(CVE番号、JVN番号)が割り振られ、脆弱性が修正されると発見者名と共に公表され、脆弱性番号は発見者の半永久的に残る業績になります。その名誉についてある研究者は、自分の墓石にCVE番号を刻むと言っています。また最近ではHackerOneなどのバグバウンティプログラムも始まり、脆弱性を報告するとその

重要度によりバウンティ(報奨金)が支払われます。

当研究室では多くのバグハンターが生まれています。学生でも直接的に社会に関わり社会に貢献することができます。ベンダーと議論を重ねたり、自分の発見したバグの修正が入った製品が世界中の人に使われたりすることで、自分が社会に影響を与えていることを実感できるようです。脆弱性は通常は修正までに時間がかかるのですが、在学中に脆弱性番号を手に入れてネットニュースで報道されることもあります。報奨金も受けています。

情報系の技術は進化が激しくその分陳腐化・コモディティ化も早いのですが、サイバーセキュリティのスキルは属人的でポータブルなものです。もともと生産的な仕事ではなく、成果物が見えにくいという性質があるため、うまくやればコンサルティングという名称で多額の報酬を得られるコースにいくこともできます。これからの転職が普通になる世の中では、おすすめのスキルです。



WordPressの脆弱性を調べる



コンピュータウイルス(マルウェア)の研究

「電大ガールズ」D-girls

6月17日に、東京千住キャンパスで開催されたオープンキャンパスに参加し、個別相談コーナーと時間割等の展示、トークショーを行いました。

個別相談コーナーは例年以上に女子高生が集まり賑わいを見せました。今年のトークショーは1年生を加えた新メンバーで行い、入学したてのフレッシュな話を聞いていただくことができたのではないのでしょうか。

8月4日・5日の東京千住キャンパスで開催されるオープンキャンパスにも参加しますので、たくさんのご来場をお待ちしております。



トークショーでは1人暮らしに関する質問なども!

電大ガールズリーダー

未来科学部 ロボット・メカトロニクス学科 3年 塚越 泉

「工学部第二部 実践知重点科目」 ～社会人対象、実践能力の育成を目的とした授業～

東京千住キャンパス事務部

「^{じっせんち}実践知」…工学部第二部で企業経験を持つ社会人を対象に開講された18科目のキーワードです。実践知とは、実践の現場で適切な判断をくだすことができる能力です。今回、実践知がテーマの科目を取材してきましたので、教室の様子をご紹介します。

「イノベーションストーリー」

イノベーションとは何ぞや？から始まった授業は、3回にわたってワークショップが行われています。工学部先端機械工学科の清水康夫教授は、学生を3つのグループに分け、それぞれの机にマウス、延長コンセント、目覚まし時計を置きました。「今から皆さんは研究員です。このグループは東京マウス株式会社(仮称)」。先生の言葉に戸惑いの混じった笑い声がおこります。

研究員となった学生たちは、与えられた商品の従来機能を分析。この分析をもとに課題を抽出し、新たな機能の搭載を考案。最後は思いついた新製品をイメージ図化し、全員の前で新製品をプレゼン。厳しい質問への対応を乗り越え、晴れて研究員の任務完了。「目覚まし時計は眠りを誘う機能もあればいいね」、「手のひら型のデータを採取してオーダーメイドのマウスはどう?」、「コンセントは延長コードが邪魔。太陽電池も活用できれば面白いかも」等々、様々なイノベーションが飛び出しました。



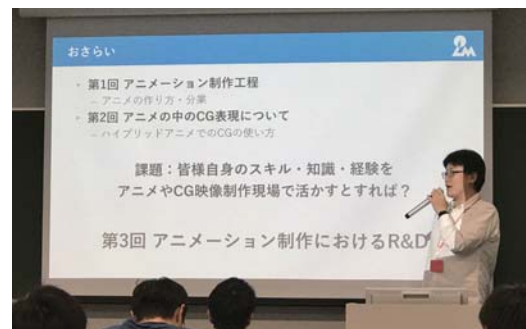
「創造設計・開発学」

イノベーションストーリーの授業

最初の5回の授業はアニメ制作会社、OLM Digitalの現役スタッフによる講義です。教材は、講師が携わったアニメーションが使われ、映画やTVで馴染みのあるキャラクターが映し出されるたびに学生たちはスクリーンに見入っていました。生き生きとしたキャラクターが動き回る一方、裏側では厳格な業務管理、制作費用の調整、凌ぎを削る最先端技術開発など現場でしか経験できない話が盛り沢山。ものづくりの楽しさと厳しさを知る場となっていました。本科目は電気・電子システム設計、機械構造設計(実験含む)と続く技術分野横断型の科目です。

これらの「実践知重点科目」に関心のある方は、ぜひホームページを訪ねてみてください。

●実践知ホームページ <https://phronesis.dendai.ac.jp>



アニメ制作会社の現役スタッフによる講義

新しい時代を拓いた科学・技術 vol.12

ジェームズ・ワット イギリス ● 1736年～1819年

蒸気機関を改良し産業革命に寄与

人類の力を高め、より高い段階へと導いた もっとも輝かしい科学の徒にして世界の恩人

新たな動力源「蒸気機関」は、社会に革新をもたらした

スコットランドで生まれたワットは、18歳で計測機器の製造技術を学び、グラスゴー大学で科学機器の維持・修理の職を得ました。その後、ニューコメンの考案した蒸気機関に興味をもち、教授陣の支援を得て、炭坑の地下水汲み上げポンプの蒸気機関の模型を苦勞の末に修理。さらに性能を向上させ熱効率を倍以上にし、その結果、石炭使用量は大幅に削減されました。さらに1784年には、蒸気機関の往復運動を歯車利用の回転運動に転換させる技術を開発。蒸気機関はさまざまな機械の動力源として第一次産業革命の主役となりました。エネルギー源が薪や水力から石炭になり、機関車や汽船など輸送手段に導入されて人間の行動範囲が大幅に拡大し、動力革命また交通革命ともいわれます。



©TDU

電力や仕事率などを表す単位の「ワット」(記号はW)は、ジェームズ・ワットの業績を称え、ワット死後の1889年にイギリスの学術協会で名付けられました。現在は国際単位系(*)のひとつです。

*国際単位系:International System of Unites(略称はフランス語に由来して「SI」)



加藤理事長から謝辞



1号館大階段で記念撮影

寄付感謝の集い開催 ～学校法人東京電機大学サポート募金～ 経理部（募金担当）

寄付者に感謝するとともに、本法人の寄付活動に対する理解を深め、今後の継続的なご支援に繋げることを目的として、学校法人東京電機大学サポート募金寄付感謝の集いを、6月16日に東京千住キャンパスにて開催しました。

当日は約120名の出席者の中、加藤康太郎理事長から謝辞が述べられ、続いて、サポート募金の概要と昨年度の実績(355,724,079円(939件))について報告を行いました。その後、ものづくりセンターの活動報告、初代電機第一工業学校長でおられた、波多諄三先生のご息女である深井綾様からの募金を原資に新設された、給付型奨学金について説明が行われました。

また、平成29年度「東京電機大学神山治貴海外留学派遣奨学金」による派遣学生からの留学体験談と、学生団体52団体への課外活動支援を代表し2団体(東京千住キャンパス硬式野球部、埼玉鳩山キャンパス蹴球部)から、活動報告がありました。次に、寄付者顕彰規程に基づき、新たに顕彰された15名の方々について紹介があり、代表の方に加藤理事長より称号記が授与されました。報告会終了後は感謝の会が開催され、寄付者と教職員・学生等が交流する場となりました。

サポート募金は恒常的な募金です。皆様におかれましては、引き続き、学生・生徒の修学環境の整備等に向けて、ご理解・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。



埼玉鳩山キャンパス蹴球部から活動報告

平成29年度学長賞授与式 ～今年は学長賞受賞者 OB・OGの集いとの同日開催～

東京千住キャンパス事務部（学生厚生担当）

6月30日に東京千住キャンパスにて、学長賞受賞学生57名を対象とした学長賞授与式を開催しました。

学長賞は平成12年から設置され、人物・学業ともに本学学生の模範となる者を表彰する制度です。前年度1年間の学業成果により、学科長及び学系長からの申請に基づき学部長が推薦を行い、学長が決定し表彰しています。

受賞者には賞状に加え、この運営に多大なるご支援をいただいている神山治貴本学名誉博士(マクニカ・富士エレホールディングス(株)取締役会長)のご寄付より、記念品も授与されました。

今年度は、受賞者間のさらなる交流と、過去の学長賞受賞者との交流促進を目的とし、平成28年度より単独で実施していた学長賞受賞者OB・OGの集いと同時に開催しました。

当日は、神山名誉博士の講演(タイトル:学長賞受賞者～飛躍する皆様へ～)に続き、本学理工学部共通教育群福富信也講師の講演(タイトル:シナジーを生み出すチームビルディング)、出席された20名の卒業生の方と在学生によるグループディスカッションも行われ、大盛況のうちに終了しました。



神山名誉博士による講演

プログラミング教室開催 ～15名の小学生が参加～



Scratch講習会開始挨拶



コンピュータ部員が優しくサポート

6月10日に、小学5・6年生を対象としたプログラミング教室を開催しました。本校のプログラミング教室は今年で3年目の開催となり、15名が参加しました。2020年度の小学校プログラミング教育必修化に伴い、年々参加希望者が増加しています。

今回はScratchというソフトを用い、パズルをする感覚でプログラミングの楽しさを体験してもらいました。当日は講師役、参加者のサポート、受付や誘導まですべてコンピュータ部員で運営しています。前半の50分で基本となる使い方を学び、後半の50分で参加者そ

れぞれがオリジナルの作品を作るという流れで進行了ました。途中、参加者がどうしたら良いか困っていると、その様子を察して部員が優しくフォローします。参加者の小学生とは年齢に近いこともあり、的確なアドバイスをすることができたようです。

最後は保護者の方を交え、感想交流会を行いました。部員たちはプログラミングの質問に加えて、学校生活に対する質問にも熱心に答えていました。プログラミングを通して、本校のことを知ってもらい良いきっかけにもなりました。

(高等学校教諭 中田和樹)

文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」

順調に進んでいる「私立大学研究ブランディング事業」

～まずは人材育成施策が軌道に乗る～

平成29年11月から始まった本事業は、事業実施体制の構築や研究環境の整備、情報発信等を事業計画に沿って実施してまいりました。

平成30年度になり、本事業の柱の一つである「人材育成」の一環として、新たに公開講座「医療機器国際展開技術者育成講座」及び「AI活用リモートメンテナンス研究会」を立ち上げ軌道に乗せました。この分野に携わる多くの方々にお集まりいただき、活発な議論がなされています。

8月には「イノベーション・ジャパン2018-大学見本市」にて、本事業の研究成果の一端を披露する予定で

す。様々な企業や研究機関の方々にPRし、「セキュアIoT生体医工学」=「東京電機大学」を浸透させていきます。



AI活用リモートメンテナンス研究会

東京千住キャンパス

春の地域清掃活動



6月22日の午後、足立区の「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の一つである、地域清掃活動が行われました。本学のキャンパスプラザに地域の中学生や、商店街、官公署の方々が大量集まり、3つのグループに分かれ、各地区の清掃活動に貢献しました。

梅雨の晴れ間、子供と大人が力を合わせて無事に活動を終えることができました。

(東京千住キャンパス事務部 米澤)

埼玉鳩山キャンパス

理工学部自動車部が エコカー大会で1位を獲得



6月23日に行われた「Hondaエコマイレージチャレンジ2018 もてぎ大会」に出場し、大学生クラスにおいて優勝しました。この競技は燃費の高さを競う大会です。今回の記録は934km/lと2位と大きく差をつけ優勝しました。9月には全国大会が行われ、よりハイレベルな大会となります。全国大会に向け、さらなる燃費向上に全力で活動していきます。

(自動車部部長 電子・機械工学系 3年 成田)

東京小金井キャンパス

twitter始めました



「TDU広報室」は、中学校・高等学校の4D-Labの一つで、学校の様々な情報や行事の様子をLabメンバーが発信しています。

先日の4D-Labでは、「発酵人」Labの味噌やパン作り、「お菓子で考える社会学」Labのクッキーや餃子作りが行われ、その様子を発信しました。

是非アクセス・フォローしてください。

https://twitter.com/TDU_koho

(中学校・高等学校事務室 中野)

東京神田キャンパス

出版局 棚卸



6月29日に、出版局の棚卸を行いました。出版局は9月中旬に東京千住キャンパスへ移転することが決定したため、神田で行う最後の棚卸でした。学園創立とともに活動してきた“本の街”神田を離れることは感慨深いものがあります。

9月からは事務室は5号館12階に移り、書籍管理は東グラウンド横の新書庫で行います。教科書をはじめ良書刊行を通して教育・研究のサポートができるよう、気持ちも新たにより一層励む所存です。

(出版局 坂元)

オープンキャンパス開催

入試センター

6月16日(埼玉鳩山キャンパス)と17日(東京千住キャンパス)に、オープンキャンパスを開催しました。来場者数は6月期として過去最高となり、多くの方に本学の魅力を体感していただきました。

各学科・学系が展示の紹介やワークショップ、装置のデモンストレーションなどそれぞれの特長をアピールするための工夫を積極的に行い、未来の後輩やその保護者からの質問にも分かりやすく答えていました。また、当日は両キャンパス合わせて160以上の研究室を一挙公開し、多くの高校生でにぎわいました。

ご来場者の方からは、本学の学生と関わる機会が多くあり、ホームページ等の情報だけでは得られない学生の雰囲気を感じることができて良かったとの声を多くいただきました。

次回のオープンキャンパスは、8月4・5日に両キャンパスで開催します。皆さまのご来場をお待ちしております。



展示の紹介を行う学生



8月もお待ちしています

技術勉強会「こんなところで使われる流体工学」

研究推進社会連携センター(産官学交流センター)

6月11日・18日・25日に東京千住キャンパスにて、足立区との共催による技術勉強会を開催しました。この勉強会は産学連携の促進を目的として、定期的に行われています。

今回は「こんなところで使われる流体工学」というテーマのもと、工学部先端機械工学科の藤田壽憲教授を講師に、第1回「流体工学って何?」、第2回「流体エネルギーと流れの見える化」、第3回「空気圧システムにおける流体工学」の内容による連続講座で、空気を動力源とする空気圧について解説しました。

3日間で述べ120名の方が参加され、皆さん真剣な表情で受講されました。



3日間行われた勉強会

「海外留学体験談」発表会

国際センター

6月25日に東京千住キャンパスにて、海外留学体験談の発表会を開催しました。アーカンソーテック大学(アメリカ)に9カ月間留学していた工学研究科情報通信工学専攻1年の松島勲旺さんと、フランススキング スクール オブ イングリッシュ(イギリス)に短期留学した工学部情報通信工学科4年の小林晴貴さんが留学体験について発表しました。

当日は約20名の学生が参加し、学校や授業の様子、留学中に訪問した場所や参加した行事など多くの写真を用いて説明してくれました。

留学に興味がある1年生やこれから長期で留学する学生まで幅広く参加し、終了後も多くの質問が寄せられ海外留学への関心の高さが伺えました。



松島さんの留学体験談

総合研究所 佐々木特命教授が 「2018年アジア・パシフィックISLA」を受賞

総合研究所

総合研究所の佐々木良一特命教授が、世界最多のサイバーセキュリティプロフェッショナル資格者を擁する非営利団体(ISC)²による、第12回年間アジア・パシフィック情報セキュリティ・リーダーシップ・アチーブメント(ISLA[®])を受賞し、7月9日に香港のコンラッドホテルで授賞式が開催されました。

ISLAとは毎年1回、情報セキュリティプロフェッショナルの育成と発展に寄与した、アジア・パシフィック地域のリーダーとその功績を表彰するものです。佐々木教授は情報セキュリティ教育者部門での受賞となりました。



9日の授賞式にて(中央が佐々木特命教授)

「学内IELTS講座」説明会

国際センター

7月5日に、夏季休暇中に学内で開催されるIELTS講座の説明会を開催しました。IELTS(International English Language Testing System)は、海外留学や海外移住の際に必要な資格の一つで、英語力を判断するためのテストです。留学希望者はもちろん、就職活動のために受験を考えている学生約70名が参加しました。

説明会では一般財団法人JSAFの方をお招きし、IELTSとはどんな試験であるのか、試験の特徴や類似試験であるTOEFLとの違いについてお話がありました。過去に出題された問題を例に、苦手とする人が多いWritingの書き方のコツ等もご説明いただき、学生も熱心に耳を傾けていました。

今回の説明会を機に、留学や就職活動に向けての英語学習に興味を抱き、学内IELTS講座を受講する人が増えることを期待しています。



IELTSの関心の高さが伺えた説明会

第13回ゴミ拾い大作戦

東京千住キャンパス事務部(学生厚生担当)

7月5日にクリーンプロジェクトの一環として、ボランティアサークル“らいふ”が中心となり、第13回ゴミ拾い大作戦を開催しました。クリーンプロジェクトはキャンパス内外の清掃活動によって、学生・教職員の美化意識を向上させることを目的として開催しており、参加者は約30分間キャンパス周辺の清掃活動を行いました。

当日は時折小雨と突風が吹きつける中、約180名の学生・教職員が参加しました。当イベントは後期も開催予定です。多くの皆様のご参加をお待ちしています。



キャンパス周辺を清掃する学生

2019大学案内&研究室ガイドブック発行 入試センター

2019年度版の受験生向けパンフレットを発行し、既に進学相談会、見学会等で配布しています。

大学案内は、全学部の紹介、各キャンパス、就職支援など1冊で大学のことが分かる全ての情報を掲載。研究室ガイドブックは、卒業までに必ず所属することになる研究室を紹介。学科・学系選択の参考にもなります。



2019大学案内



2019研究室ガイドブック

- ご希望の際は、下記よりご請求ください。

<https://www.dendai.ac.jp/prospective-students/>

CRCパンフレット発行

研究推進社会連携センター

本学の研究戦略の立案、研究活動の推進から研究成果の社会還元、地元行政と連携した地域貢献活動を担う研究推進社会連携センター(CRC)のパンフレットを配布しています。

パンフレットにはCRCの4つの部門である、総合研究所、研究推進部、地域連携推進センター、産官学交流センターの紹介、具体的な取り組みなどを掲載しています。

ホームページにも掲載しておりますので、是非ご覧ください。

<https://www.dendai.ac.jp/crc/e5vdec00000670m-att/CRC-web.pdf>

- 郵送をご希望の方は、必要事項をご記入の上、crc@jim.dendai.ac.jpまでご連絡ください。

件名に「パンフレット希望」と記入し、本文にa.氏名b.郵送先(郵便番号、ご住所等)を添えお申込みください。



CRCパンフレット

アニュアルレポート2018発行

総務部(企画広報担当)

平成29年度の学園活動の概要を掲載した、アニュアルレポート2018が完成しました。

特集ページでは、文部科学省の私立大学研究ブランディング事業に選定された高度セキュアIoT医療機器システムの研究開発と、ものづくりセンター本格運用スタートについて詳しく掲載。卒業生スペシャルインタビューは、SUBARUの自動車技術「アイサイト」の進化をリードする木戸辰之輔さんです。

ホームページにも掲載しておりますので、是非ご覧ください。

<https://www.dendai.ac.jp/about/gakuen/publicity/download/>



アニュアルレポート2018

受賞
情報

顕著な活躍をした電大人を紹介します。



宍戸 真教授

システムデザイン工学部 英語系列

EdMedia 2018

OUTSTANDING PAPER AWARD

平成30年6月29日



本橋 光也教授

工学部 情報通信工学科

鈴木 俊明さん

本学 研究員

吉野 隆幸准教授

工学部 情報通信工学科

丹羽 雅昭講師

工学部 自然科学系列

日本材料科学会 平成30年度学術講演大会

論文賞

平成30年5月31日



理工学部自動車部

Honda エコマイレージチャレンジ2018

第10回もてぎ大会

グループIII(大学・短大・高専・専門学校クラス)

優勝

平成30年6月23日



岩元 正紀さん(修士1年)

工学研究科 電気電子工学専攻 電子光情報コース

(電子デバイス研究室)

日本材料科学会 平成30年度学術講演大会

若手奨励賞(ポスター発表部門)

平成30年5月31日

(受賞日順)

校友会だより



平成30年度全国支部長会・校友会社員総会 開催

6月9日に東京千住キャンパスにて平成30年度全国支部長会を開催し、校友会各県支部長・理事・監事67名の他、学園から加藤康太郎理事長、安田浩学長をはじめとする役職者13名の方が出席されました。同会では、学長から大学と卒業生の繋がり的重要性について述べられました。

また、支部長会終了後に校友会社員総会を開催し、理事・監事・代議員・参与106名の方が出席されました。総会の詳細は、校友会誌「工学情報」2018年秋号(10月10日発行)にてご報告します。



社員総会で挨拶する松尾校友会理事長

学生だより

夢は社会の役に立つ メーカーエンジニア

～中国から日本へ～

システムデザイン工学部 デザイン工学科2年
マ トウヒ(中国)

私が中国から日本にやって来たのは2年半前のことです。初めて日本に来た頃は何か知らず、日本文化や習慣に慣れるのもかなり大変でしたが、いろいろな人と出会い、たくさんの人たちとの会話と交流によって日本の文化を自然に理解できるようになりました。そして、先生と友人たちのおかげで少しずつ日本語を理解し、日常会話やコミュニケーションなどもできるようになりました。そして今、充実した留学生生活を過ごしていると心から言えます。

将来は人間社会の役に立てるメーカーエンジニアを目指し、デザイン工学科で勉強しています。基礎的な知識と専門的な手法を身につけるため、毎日真面目に課題と勉

強をこなしています。私はさらに高い技術と知識を深めることが最も重要なことだと思っていますので、卒業後は大学院に進学する予定です。今まで学んだ基礎的な知識だけではなく、より深く専門分野について研究したいと考えています。



課題の資料集め
など図書館には
頻繁に通う

時代を越えて—東京電機大学の軌跡

戦後復興期(2) | Vol.12 |

〈昭和20年～昭和24年〉

昭和22年11月、創立40周年記念式典を盛大に挙げる(共同講堂)。電機学園歌が発表され、記念運動会、電機展覧会、記念講演会等が式典に前後して開催された。これらにより学園は、再び明るい気分を取り戻した。

昭和23年4月、電機第一・同第二工業の両校を合併移行し、新制度の電機学園高等学校を設立。校長に池谷武雄が就任。また10月には社団法人電機工業会から、三たび、水力発電実験所が寄贈された。

これは本学園卒業生の母校に寄せる熱い敬慕の表れである。



三たび卒業生の寄贈により復興した水力発電実験所

このように職員、生徒、卒業生の三位一体の献身的な努力により、学園は急速に復興に向かい、大学設立の機運が台頭してきた。

出典「学校法人東京電機大学75年史 小史」
(一部読みやすく修正しています)

今月の俳句

教職員親睦会「千住俳句会」

本校に行くが遠足分校児
乳酸菌飲料甘し春灯し
遠足写真母の体の大きくあり

明(井川明)

七美男(松田七美男)

鷗村(藤田聡)

Information

総合研究所 研究成果発表会 総合研究所

8月2日に、総合研究所の「研究成果発表会」を開催します。総合研究所は、1981年に設立された全学的な総合研究機関です。学外にも設備や装置を提供する開かれた研究施設として、実学を重んじる本学の理念に基づき、社会のニーズと合致した実践的な研究課題に取り組んでいます。

「研究成果発表会」は、本学教員の幅広い分野にわたる研究成果を広く一般に公表するために毎年開催しており、特別講演及び研究成果発表を行います。

日 時 8月2日(木) 13:00~16:40 (受付開始:12:30~)
会 場 東京千住キャンパス 1号館 1階100周年ホール
北千住駅東口(電大口)徒歩1分

内 容

- 13:00~13:10 開会挨拶 東京電機大学 副学長 研究推進社会連携センター長 柏崎 尚也 教授
- 13:10~13:50 特別講演 「人工知能は世界の何を変えるのか」
知能創発研究所長 システムデザイン工学部 情報システム工学科 前田 英作 教授
- 13:50~14:50 研究発表
「多孔性ポリスチレンにアミノ尿素およびアミノチオ尿素を固化した
キレート樹脂の金属捕獲能評価」
工学部 自然科学系列 田中 里美 講師
「酵素を用いた新規ペプチド合成法による
有用ペプチド生産」
理工学部 生命科学系 安部 智子 助教
「室内快適性担保とエネルギー効率性を考慮した照明システムの提案と実装」
システムデザイン工学部 情報システム工学科 松井 加奈絵 助教
「陽子線マイクロビームに対するCNTTFTの電流応答機構の解明と
リアルタイム線量測定」 理工学部 理学系 石井 聡 助教
- 14:50~15:30 ポスター発表者によるショートトーク
- 15:30~15:40 休憩
- 15:40~16:40 ポスターによる研究発表(1号館1階エントランスホール)
エネルギー・環境、生命・医工学、情報、基盤工学、基礎科学の分野より全27件



定 員 100名(参加費無料)
申 込 み メールにてお申し込みください(先着順)
E-mail:kenkyu-k@jim.dendai.ac.jp
お問合せ 東京電機大学 研究推進社会連携センター TEL:03-5284-5230

編集後記

今年度は8月11日~21日が夏期休暇になります。涼を求めて北へ行くか、夏を思いきり楽しむために南へ行くか、長い休みの前は想像するだけでワクワクしてしまいます。帰省される方、旅行に行かれる方など過ごし方はそれぞれだと思いますが、皆様が良い休暇を過ごせるよう願っています。

TDU

学校法人東京電機大学 (総務部企画広報担当)

〒120-8551 東京都足立区千住旭町5番

TEL. 03-5284-5125 FAX. 03-5284-5180

E-mail:soumu-kikaku@jim.dendai.ac.jp

https://www.dendai.ac.jp/



この印刷は環境保護の為、印刷に伴う廃液を排出しないシステムで印刷されています。



自然の力で紙を再生する